

消費者ニーズに対応したイチゴ産地の育成

鹿行農林事務所経営・普及部門

イチゴ経営における重要課題として「クリスマス需要に対応すること」、「安全・安心なイチゴ生産を実現すること」が挙げられます。これらを解決するため、夜冷処理と IPM 防除の推進に取り組みました (H22～H26)。また、県オリジナル品種「いばらキッス」の普及拡大にも取り組みました。

簡易夜冷処理で需要期出荷

クリスマス需要期の出荷量向上のため夜冷処理を推進しました。効果的な夜冷処理のポイントが整理できたこと、炭疽病防除法が確立されたことにより、夜冷処理面積率は 32% (H22) から 56% (H26) に向上しました。それに伴い、12 月中旬の出荷量は約 14 万パック (H22) から約 24 万パック (H26) に増加しました。

IPM 実践農家数の推移

22 年	23 年	24 年	25 年	26 年
4 戸	10 戸	21 戸	30 戸	56 戸



防虫ネット (左) と青色粘着板 (右) 設置圃場

県オリジナル品種「いばらキッス」の普及拡大

「いばらキッス」の普及拡大を進めました。既存品種との栽培特性の違いや、炭疽病に弱いという問題を克服し、現在は果実先端部の着色不良「先白果」の克服に向け栽培試験を行っています。いばらキッスの栽培面積は 10a (H22) から 117a (H26) に増加し、H27 には 220a まで増加しました。



写真 1：夜冷処理ハウス

IPM で安全安心なイチゴ生産

イチゴに発生する主要害虫「ハダニ類」、「アザミウマ類」防除を目的として、化学農薬防除に加えて天敵ダニの活用や防虫ネット展張などに取り組む、IPM 体系の普及を推進しました。

防除効果が理解・実感されるにつれ、導入農家数が増加し、導入農家数は、4 戸 (H22) から 56 戸 (H26) まで増加しました。



いばらキッスの生育状況